

平野ロジスティクス 輸入でOLT開始へ 羽田・深夜着→成田・早朝、空港外施設へ搬入



平野ロジスティクスは羽田→成田で積極的にOLTサービスを展開していく

平野ロジスティクスは、羽田に深夜に到着した貨物を、早朝には成田空港外のフォワーダー施設に搬入するOLT(保税運送)サービスを検討している。東京国際エアカーゴターミナル(TIACT)と協力して行う。平野ロジスティクスは既に、昨年10月の羽田再国際化時点から両空港間のOLTを展開している。TIACTは、香港航空が羽田にスプリット・チャーター便を運航していた際、到着貨物を早期リリースするサービスを展開していた。平野ロジスティクスは同サービスを現行フライトでも行うことを提案。羽田の活性化にもつなげていく。

平野ロジスティクスの益子研一関東支店長は「既に成田空港外に施設を構えるフォワーダーが羽田周辺に物流施設を構えることは考えにくい。となれば、首都圏空港の活性化に向けては、成田と羽田を結ぶトラックネットワークが鍵を握ってくる」と述べる。同社は羽田再国際化直後から、外国航空会社からの依頼を受け、両空港間でOLTシャトル便のサービスを展開中。貨物量が多い日は、10トントラックで往復20便程度を運行している。

ほかにも、エクスプレス会社の拠点がある新木場地区(東京都江東区)を経由する成田→新木場→羽田便も40～50便を運行している。同サービスは新木場営業所と連携して行っている。

羽田については、「輸出に目が向きがちだが、輸入での活用」(益子支店長)を模索する必要があるとの認識だ。例えば、深夜に到着した羽田止めの貨物がTIACTの協力により、早期リリースを実現し、午前8時には成田空港外のフォワーダーの施設に搬入されている状態になれば、「素晴らしいことだろう。航空会社、TIACTのフォワーダーへの営業で一役買えるサービスになればとの思いもある」(同)とする。

同社は3月1日、羽田空港出張所を開設した。同所には、羽田が24時間オープンしているという特性を生かし、「24時間運行管理センター」の機能も持たせている。全国各地の車両運行状況を管理している。各地の道路状況を見ながら、最適なルートを案内するほか、想定重量を上回る場合は増車し、貨物にダメージがある場合は写真撮影して顧客に速やかにデータを提供している。また、同出張所では情報システム面の高度化も進めている。貨物の動態情報の提供・アップデートなどの分野で、一部航空会社のカスタマーサービスを担っている。